

(2) ヒューマンスケールにおける快適なみどり空間の創出

ア 歩道状空地の持つ通行機能等の可能性を最大限発揮させる

(ア) 道路との一体感

前面道路と一体的な空間にすることで、歩道機能を補完している。



前面道路に歩道がないにもかかわらず、通路部分を植栽帯で隔てているため、道路との一体性を欠いている。



通路を隔てている植樹

(イ) 有効幅員の確保

歩行者動線を考慮した植栽配置により、有効幅員も確保した歩行空間が生み出されている。



歩道状空地の植栽帯が障害となり、歩行者の通行可能な有効幅員が確保されていない。



有効幅員不足（1m 未満）



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

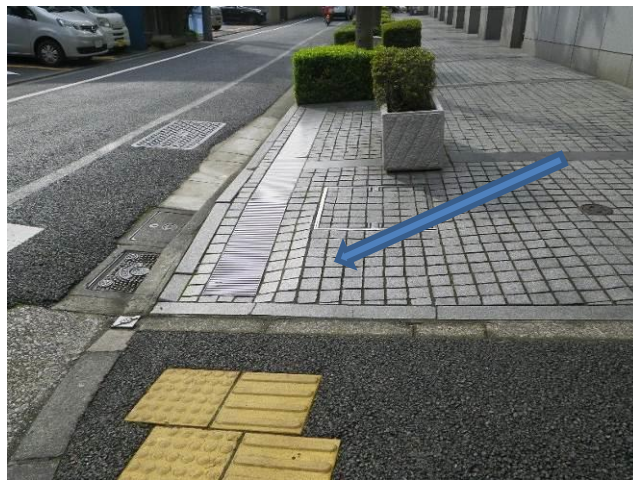
(ウ) 横断勾配

広い幅員、段差がなく平らで滑りにくい路面、ゆとりある枝下空間・植栽などが空間の価値を高めている。



フラットな舗装面

前面道路とのすりつけが適切でないため、一部横断勾配がきつく、歩行しづらくなっている。



一部横断勾配がきつい

(エ) 段差の解消

歩道の高さやフラットに整備され、歩きやすいみどり空間を創出している。



フラットな舗装面

歩道とのすりつけに段差が生じ、バリアフリーな空地になっていない。道路管理者との調整が必要である。



段差がある。

凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(才) 枝下高さの確保

整備当初から一定の大きさの樹木を植栽することにより、安全に歩くことができる空間を創出している。



ゆとりある枝下高さを確保

樹木の枝下空間が確保されていないため、歩行しづらくなっている。



枝下が低く歩行に支障がある。

(力) 滑りにくい舗装

滑り抵抗が高い舗装材料として、れんが舗装を使用している。



滑り抵抗が低い舗装材料を一部に使用しており、雨天時等では歩行上危険な面がある。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(キ) 歩行動線の確保

歩道と植栽地が一体的となり、スムーズな歩行動線が確保されている。



歩行動線が適切に確保されていないため、植栽地を横切る踏圧により植栽が育たず消失してしまっている。



植栽が消失している。

横断歩道から敷地内への動線上に高木が植栽されており、歩行の支障になっている。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

イ 広場状空地の持つ溜まり機能の可能性を最大限発揮させる

(ア) 歩行者動線との整合

人が溜まる空間と歩行空間が明確に分けれ、効率的な利用が図られている。



利用状況によっては、人が溜まる空間と歩行空間が混在する場合もある。



(イ) 休養機能

広場状空地にベンチなどが設けられ、利用者が休憩できる空間を提供している。



まとまった広場状空地が設けられているが、ベンチ等を設けることで、更に利用しやすい空間になり得る。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(ウ) 緑陰

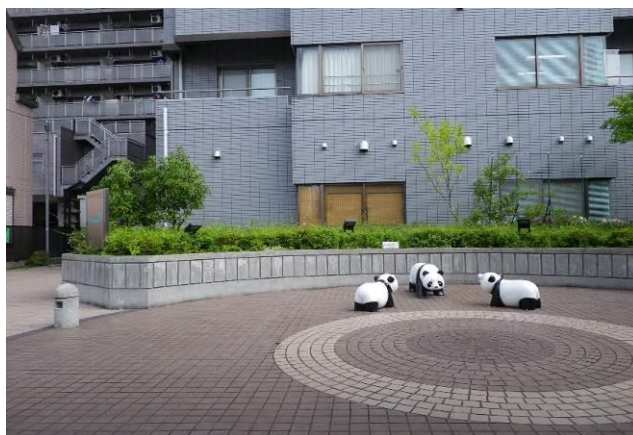
適切な樹木配置により、緑陰効果が期待できる空間となっている。



休憩スペースに高木を植栽することにより、効果的に緑陰を形成している。



植栽は敷地の辺縁に施されているが、低木ではなく高木により緑陰を充実させることで、更にみどり豊かな空間になり得る。



規模の大きい広場状空地であればこそ、緑陰樹を充実させることで、更に緑豊かな空間になり得る。



(エ) 芝生広場や水景施設の配置

舗装の代わりに芝生広場や水景施設を配することにより、安らぎと潤いのある滞留空間を創出するとともに、ヒートアイランド現象の緩和や雨水浸透効果が期待できる。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

コラム：「ヒューマンスケールにおける快適なみどり空間の創出」

公開空地は、歩道等の公共空間と建物空間の中間領域に位置しており、機能的にも空間的にも双方の空間における活動を結び付けるものです。そのため、公開空地は、歩道や隣接した公園等との一体的な利用ができるようにし、にぎわいの連続性を阻害しない配置やデザインにすることが必要です。

また、樹木、花、水、ベンチ、芸術系モニュメント等を配置することで、憩いの場として積極的に演出し、魅力ある空間とすることが求められています。その際、横断勾配を緩やかにしたり、段差解消や滑りにくい舗装にするなど、車椅子やベビーカーを利用する人にも利用しやすい、ヒューマンスケールを取り入れた快適な緑地空間が重要な要素となってきます。

※ヒューマンスケールとは、人体や運動能力を基準にして空間のサイズを考えることです。



撮影：東京ミッドタウン